

〈三郷学の視点③6〉

三郷学の視点

17. 資源 (三郷の自然〈水田の風景〉)

三郷市は、古くから早場米の産地として知られてきました。昭和30年代から都市化が進み、三郷市の人口は、早稲田村、東和村、彦成村という3村合併で三郷村が誕生した昭和31年当時17,313人であったものが、今では135,203人と当時の約8倍に増えています(平成25年7月1日現在)。近年は、つくばエクスプレス三郷中央駅周辺、三郷インターチェンジ周辺、新三郷駅周辺の開発が三郷のまちににぎわいをもたらしています。

一方、三郷には、江戸川の河川敷やみさと公園など、人々



水田に訪れるシラスギ(左)、アオサギ(右)

のところに安らぎと潤い^{うるお}をもたらす豊かな自然があります。今の時期、一面が緑の絨毯^{じゅうたん}となる水田にも豊かな自然があります。水田には、アメンボなどの昆虫やオタマジャクシ、小魚をはじめ、市の鳥であるカイツブリや、シラスギ、アオサギなどの鳥類も生息しています。

水田は、私たちの食卓に美味しいお米を提供してくれるだけでなく、私たちの暮らしに四季の変化という潤いをもたらします。